

誰もが抱える悩みをパパッと解決！

福田貴一先生の



早稲田アカデミー
本社運営部長
福田 貴一

福が来るアドバイス

なぜ、中学受験をするのかを考えてみましょう！

中学受験成功のカギを握る

小学校3、4年生時代*

最近の傾向として、難関中学への合格を目指す進学塾では、小学校5、6年生はもろろんのこと、3、4年生の指導にも力を入れています。

その理由は、3、4年生でしっかりとした頭の土台を作っておかなければ、5、6年生で知識のインプット・アウトプットのトレーニングをして、知識が頭に入らない、うまく取り出せないなどと言った状況に陥り、効率的な受験勉強ができないうからです。

そして、これからの時代、大学で求められる力は、考える力。自ら切り開いていく力へと変わっていきます。これらの力を身につけるのも、実は小学校3、4年生の時期なのです。実際、すでに大学が求める力だけでなく、制度そのものが大きく変わるようになっていきます。そのひとつが、9月入学です。現在はまだ検討中ですが、いくつかの大学で議論が進められ

低学年から準備を始める傾向が強まってきた中学受験。何となく周りに流されて塾に通い始め、いつの間にか中学受験を目指していた。もしかすると、そんな子どももいるかもしれません。しかし、中学受験は、何となく、いつの間にかで合格できるほど易しいものではありません。真剣に考えて受験することを決めた方も、「まだ中学年だから…」と黙っている方も、一度、「なぜ、中学受験をするのか」について考えてみましょう。

受験に向けての「ぶれない軸」

早稲田アカデミーには志望校別クラス、「NNクラス」というものがあります。そのクラスで勉強しているのは、「〇〇中学校に行きたい！」と確固たる目標を持った子どもばかりです。当然ながらNNクラスに通う子どもは合格率は高いのですが、これは学校対策を行っているからだけではありません。私たち講師が「どうしても行きたい！」という気持ちを常に高めているからです。その結果、実力、もしくは実力以上の力で合格できるのです。

反対に、入試直前の10月の模試の結果を見て、「〇〇中学は昨年比の応募者数が増えているから、減っている△△中学にした方がいいかも…」と志望校を途中で変えてしまった場合、結果はどうなるでしょうか。残念ながら、志望校を変更した子どもよりも、当初からその学校を目指していた子どものほうが合格する率は高いようです。これは当然のことです。親が子どもに「志望校を変えた方がいいんじゃないかな？」

の一番の魅力なのです。

また、私学の大半が宗教の考え方を背景にしていることもあり、理念、校風、考え方が公立よりも明確です。言い換えれば、私学は「ぶれない軸」で子どもたちを6年間育ててくれるのです。たとえば、ある私学の理念が「自調自考（自分で調べて自分で考える）」だとします。実際にこの学校の入試問題やカリキュラムを調べてみると、「自分で考えていくような子どもを選ぶための試験」や「自分で考えられるようなカリキュラム」が用意されていました。当然ながら、この私学で学べば「自調自考」できる子どもになるはずなのです。

中学校、高校の6年間は、誰もが一度しか経験できません。その6年間を子どもたちの人生のなかで光り輝いていた時期にできるかどうかを決めるのはご両親です。チャンスは1回しかありません。「受験をさせるべきか、させなくてもいいのか」「受験させるならばどんな環境で学ばせたいか」、しっかりとご両親で話し合い、そして親子で考え、悔いのない選択をしてください。



少なくとも、今の時代、「大学時代をどう過ごす、何を学んだのか」が就職するときに問われる時代になりました。それに自信をもって応えられる大学生を送るためには、中学校と高校の6年間で大きく影響するのは言うまでもありません。できれば、多くの友だちから刺激を受け、将来的な人脈を築いていきたいと思います。そして、何かに熱中できる環境があること。そういった環境を自ら選ぶことが、中学受験をする一番のメリットだと思っています。

では、環境を選ぶとは、具体的にどういうことでしょうか。

大学進学実績に差がある学校を比較した場合、教科書やカリキュラムにそれほど違いはありません。それにもかかわらず実績が違ってくるのは、環境が異なるからです。

根本的な違いは、生徒全員が難関大学と呼ばれる国立や私立の大学を目指しているか否かです。学校の先生も生徒の志望に合わせた授業展開をすることができると、いろいろなタイプの生徒が通う公立に比べれば、効率が良くなります。つまり、生徒たちの学力や考え方に偏りがないことが私学

ない？」と言った瞬間、子どもたちは「自分は無理なんだ」とモチベーションを下げてしまっています。しかも、それを言われるのが、学習密度を高めていかなければならない10月以降です。できれば、動揺をさせないためにも、最後まで「ぶれない軸」を持ち続けることが大切です。

なお、この「ぶれない軸」は高学年になってから持つものではありません。しっかりと頭の土台を作るためにも、小学校3、4年生のうちから志望校を見つけ、「ここに行きたい」「この中学校に通わせたい」と強く願う「ぶれない軸」を持つようにつなげましょう。

中学受験を決定したならば、いくつかのデメリットがあることを覚悟してください。

まず、塾の費用などが必要になります。子どもにとっては、遊ぶ時間が削られるのももちろんのこと、家庭で過ごす時間も減るでしょう。そして、最も大きなデメリットは、中学校と高校でかかる費用です。公立の場合、義務教育の中学校、さらには高校も無償になる可能性があります。しかし、私学に通えば6年分の学費が必要です。

一方、メリットは何でしょうか。ひとつは、中学校、高校の環境を選ぶことができることです。このように言うと、すぐに大学進学実績だけを考慮してしまうれるかもしれませんが、今の中学1年生が大学受験をするのは5年先です。おそらく入試科目や入試問題は今は変わるでしょうし、もしかすると入試の時期も変わるかもしれません。そう考えると、今の大学進学実績だけで学校を選ぶのはとても危険なように思います。それよりも大切なのは、「中学校、高校の6年間をどんな環境で過ごすのか」ということ

ブログ 四つ葉café 公開中！



中学受験をお考えの小学校3・4年生のお子様をお持ちの保護者のためのブログです。

本社運営部長 福田 貴一

早稲田アカデミーホームページにて公開

中学受験に関するブログを公開しております。このブログでは、学習計画の立て方、やる気の引き出し方、テストの成績の見方、学校情報など、中学入試に関する様々な情報をお伝えします。

詳細はホームページをご確認ください。

早稲田アカデミー 検索